

## ジョン・ピルジャー第三次大戦の脅威を語る

【引用者注】有名な調査ジャーナリスト、ジョン・ピルジャーの、この対談ビデオは、字幕は英語だけで日本語はないが、5/31 ピルジャーの「民衆を黙らせながら戦争の準備をするアメリカ」や、6/2「オバマの広島スピーチはこうあるべきだった」への参考資料になると考え借用した。これが終わったら、もう一つピルジャーの、多くの人の証言を綴り合せて構成したビデオ、“Pilger on Syria 2015 - 2016”を見ることをお勧めする。

オバマの広島核廃絶スピーチがいかに偽善的な（彼は *cynical*=冷笑的と言っている）ものであるかは、下の冒頭の事実から知られる。ピルジャーは、オバマの存在そのものが、今の現実を象徴するものだと言っている。つまり、アフリカ系アメリカ人が頂点へ昇りつめて権力者となったときの、復讐と狂気の混じった傲慢である。神に反逆し復讐を狙う集団がついに権力を握ったときそうなるであろう。アングロ・シオニスト - 戦争屋 - サイコパスというものが、いかに精神異常者であるかが、このビデオからもわかる。ピルジャーが、彼らに、国家テロリズムによる膨大な数の民間人の死をどう思うか尋ねると、彼らはその事実を否定するが、彼らが決して幸福でないことがわかる。「人間以下のあいつらが、どんなに苦しんで死のうと俺の知ったことか」と言える人や社会は、幸福だろうか、不幸だろうか？

彼が、元米国連大使の John Bolton に同じ質問をして、別れるとき、ボルトンは「あなたは共産党員ですか？」と捨てぜりふを言った。共産主義そのものである体制が、批判者を誰でも共産党にするのは、現代の転倒文化の特徴である。「テロリスト」と言わなかっただけかもしれませんが、ブッシュ・ジュニア以来のアメリカでは、ピルジャーは、テロリストになっているはずである。

ビデオ——Going Underground, RT

June 7, 2016, Information Clearing House



「オバマ政権下の核弾頭の生産は、冷戦後のどんな大統領のときよりも多かった。」

多くの賞を得ている作家・映画製作者の John Pilger が、第三次世界大戦の脅威について、見解を述べている。折しも、イギリスの防衛長官 Michael Fallon が、アジア安全保障会議のためにシンガポールへ飛び、そこでは米防衛長官 Ash Carter が基調演説をすることになっている。

<https://youtu.be/gbuyki6XZPo> — “John Pilger on the Threat of World War Three”